

第9期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

保険者名	第9期介護保険事業計画に記載の内容				R6年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
雨竜町	①自立支援・介護予防・重度化防止	健康寿命を延ばすためにも認知機能維持は大切である。認知機能低下のおそれのある者を早期発見し、介護予防事業や住民主体の通いの場などを活用して、認知機能維持に努め、自立した生活を送れるよう支援する必要がある。	機器(物忘れプログラム)を活用して認知機能低下のおそれのある方を早期に発見し、介護予防事業や住民主体の通いの場等につなげて、自立した生活ができるよう支援します。	機器利用判定者 年20人程度	社会福祉協議会主催の「ボランティアカフェ(通称:ボラカフェ)」内で、月1回認知症カフェ「うりゅうオレンジカフェ」を本格開催。その際、参加者14人に物忘れプログラムを実施。認知機能低下が疑われた2人に受診勧奨。うち1名はもの忘れ外来に受診し、早期診断、早期治療につながった。また、認知症を持つ家族からの相談で介護申請につながったケースが1人いた。	○	令和7年度からはボランティアカフェから独立して開催する。認知症カフェの住民周知を強化する。認知症カフェ以外でも認知機能低下の相談があった場合は、来所や訪問等で物忘れプログラムを有効に活用していく。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	健康寿命を延ばすためにも身体機能の維持向上は大切である。リハビリ専門職の協力を得て、高齢者が介護予防に努め、自立した生活を送れるよう支援する必要がある。	介護予防事業等でリハビリ専門職による助言・指導を実施します。	年2回	「さわやか健康クラブ」(介護予防事業) 8月実施 参加者 14人 内容:理学療法士による「フレイル予防について」講話、体操、指導 10月実施 参加者18人 内容:理学療法士による「認知症予防と運動の関係について」講話、体操、指導	◎	介護予防事業で年2回、リハビリ職派遣を依頼し実施した。介護予防のための知識を得たり、体操実践や指導を通して学びの機会となっている。参加者の満足度は高く今後も継続していく。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者がこれからの生活全般について自分自身でどう暮らしたいのかを考える機会づくり・ポピュレーションアプローチの場を作り、住民へ直接伝える機会が必要である。	生活支援コーディネーター等と連携し、生活や介護に係るものを題材とした「生活支援講座」を開催します。	年1~2回	生活支援講座 8月実施 参加者:24人 内容:「薬のおなはし」 講師・相談:北海道薬剤師会 南空知支部 支部長 水島 久美 氏 相談:北海道薬剤師会 理事 片山 真二 氏 11月実施 参加者 100人 内容:「ごぼう先生と楽しむ大人の健康体操講座～笑顔で楽しく介護予防～」 講師:健康体操クリエイター 築瀬 寛 氏	◎	年2回開催。どちらも住民の関心が高かった。今後も住民の声を聴き、社会福祉協議会と協議を重ねて、生活や暮らしに関する講座のテーマ、開催時期を決めて実施していく。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢化が進み、独居高齢者や高齢者世帯が増えており、生活、健康、介護などの相談が増えており、支援が必要な方が増えている。困難ケースも増えており、対象に合った支援を検討するには関係機関との情報共有は必要である。	保健、医療、福祉等の関係者との定期的な地域ケア会議において、個別ケース会議を開催し支援について話し合いを行います。	月1回開催	月1回地域ケア会議を実施。個別ケースは8件。関係機関と連携し、支援について検討した。また、生活支援コーディネーターとも生活支援サービスの利用状況や気になるケースについて情報共有し、個別支援につなげた。また、空知総合振興局が主催の地域包括支援センター等意見交換会「チームオレンジについて」に参加した。	◎	独居や高齢者夫婦世帯で支援が必要であるが、家族関係が複雑、疎遠であるケース、経済面で心配のあるケースが増えている。そのため支援が思うように進まない場合もある。各関係機関と情報共有し、適切な対応について検討していく必要がある。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	認知症になってもできる限り住み慣れた地域で暮らせるよう、地域において認知症の方やその家族を支援していくことが大切になる。そのためにはサポーターを増やし、安心して暮らせる地域づくりが必要である。	認知症サポーターの養成講座を開催します。	年1回以上	認知症サポーター養成講座(年1回) 今年度1回開催。7月に社協職員や各種ボランティア対象に認知症サポーター養成講座を実施した。7人受講した。 認知症サポーターステップアップ講座(年1回) 初めて開催した。11月に社協職員や各種ボランティア対象に認知症サポーターステップアップ講座を実施した。13人受講した。	◎	継続実施していく。 認知症サポーターステップアップ講座は初めて開催した。しかし実際チームオレンジ活動の立ち上げまでは進まなかった。今後、実働できる人材探しが課題である。

第9期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

保険者名	第9期介護保険事業計画に記載の内容				R6年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
空知中部 広域連合	②給付適正化	介護給付を必要とする受給者を適切に認定し、受給者が真に必要なサービスを提供できるようにするため、北海道では「第6期介護給付適正化計画」を策定し、保険者と一体となって取り組む方針としており、当連合としても重点事項として位置付けられている5項目について実施していく。	認定調査状況の適正化	調査票全件点検の実施	調査票全件である1,008件の点検を実施し、テキストに基づき、不整合がないか確認し、整合性のある認定調査となるよう認定調査員への指導を行った。	◎	調査事項と特記事項の整合性が図られていない調査票が見受けられることから、今後も認定調査の平準化をはかるため、調査員に対する指導を継続していく。
	②給付適正化		ケアプランの点検	隔年訪問実施	4事業所計8件について、自立支援に資する適切なケアプランであるか等に着目し、ケアプラン点検を行った。	◎	利用者の自立支援に資する適切なプランであるか等に着目し実施しており、今後も継続していく。
	②給付適正化		住宅改修及び福祉用具購入の点検	申請書類の全件点検、必要に応じた現地確認の実施	住宅改修及び福祉用具購入の申請時に全件点検を行った。また、適切な福祉用具等が選定されるようケアプラン点検時に確認を行った。	◎	不適合な改修の申請の場合は、申請者やケアマネジャーに制度を説明し理解を図っており、今後も継続していく。また、ケアプラン点検時にも確認を行っていく。
	②給付適正化		医療情報との突合及び縦覧点検	毎月点検実施	国保連合会に委託し、帳票をもとに点検実施した。	◎	国保連合会への委託と国保連合会帳票を使用した点検を実施しており、今後も継続していく。